

評価項目	評価指標	具体的方策	評価基準				評価	中間評価		
			4	3	2	1		成果○と課題▲	改善策	
確かな学力の育成	○標準学力調査(CRT)の基礎問題通過率60%未満を0に近づける。	○条件に合わせて書く活動を通して、表現する力を高める授業づくり (海小タイム、モジュール、各教科内で実を伴う活動) ○読書活動の充実 ○基礎問題通過率60%未満の児童への個別指導の充実。 (朝・昼学習、給食前学習、放課後学習、海小タイム、家庭学習の充実)	通過率60%未満の割合	0~5%未満	5~10%未満	10~15%未満	15%以上	3	【参考】全国学力・学習状況調査の選択肢問題及び短答式問題の結果は国語科83.9%、算数科79.3% ○専科中心の給食前学習や、放課後学習で、個別指導を充実させることができた。 ○「読書30冊」の取組により、質の高い読書をする環境を整えることができた。 ▲モジュールが授業の補充として位置付けていたため、基礎問題通過率に直接つなげる取組にならなかった。	・昼帯タイム(ドリルタイム)の新設を検討する。 ・海小タイムの流れを、10分間基礎問題、残り35分を記述問題にして実施してみる。 ・読書をさらに推進する声掛け取組を実施する。(図書委員会、ビブリオバトル等)
	○標準学力調査(CRT)の記述問題で平均正答率が目標値を上回る。	目標値に対する学校平均正答率	上回る	同等	10ポイント未満下回る	10ポイント以上下回る	2	【参考】全国学力・学習状況調査の記述問題の結果は国語科56.7%、算数科56.5% ○教職員で夏季休業中に本校の課題(国語、算数)を共有し、今後の取組を一緒に考えることができた。 ▲コロナ禍ということもあり、実を伴う書く活動に取り組みにくい。 ▲海小タイムに、記述問題より基礎問題を重視する学年がみられた。	・全国学力・学習状況調査の課題から見えた改善策を、再度全教職員で確認し取り組む。 ・海小タイムの内容を「海田算数のツボ」または「記述・要約問題」と内容を指定して、統一して行う。 ・ノートにまとめ、振り返りを書かせさせる指導を行う。	
豊かな心の育成	○気持ちの良い挨拶ができる児童80%	○あいさつ広げ隊 ・朝の挨拶運動(挨拶のきっかけ作り) ・海田小の挨拶の良くなる会推進会議 ○登校班の育成 ・登校班長指導 ・登校班全体表彰 ・ビックアップ指導 ○心の元気委員会の活用 ・挨拶運動 ・全校への啓発等 ○振り返り ・自己評価 ・挨拶の意義の確認 ○表彰ーファーストペンギン賞 ・いつも挨拶のきっかけになっている児童の表彰 ○動作で表す ・立ち止まる。笑顔	児童の自己評価を踏まえた教師の見取り	80%以上	75%以上	70%以上	70%未満	4	中間評価85.3% (教職員89%、来校者80%、地域87%、友達85%) ○コロナウイルス感染予防の為、大きな声での挨拶や挨拶運動等を控えさせたが、児童に「挨拶を頑張った」という意識をもたせることができた。 ▲海田西中校区のあいさつ目標の一つである「立ち止まって」の意識がうすい。	・前期、中・高学年の各クラスが交代で校門でのあいさつ運動を始めた。今後、低学年にも広げ、学校全体をあいさつをしやすい雰囲気にする。 ・海田西中校区のあいさつ目標の一つである「立ち止まって」の意識がうすいので、もう一度、教職員で目標を確認し、児童の指導にいかす。
	○チャイムと同時に学習が始められる児童80%以上	○意識の向上、持続 (チャイムと同時に学習が始めることの意義の説明、全校指導、学級指導等による啓発、評価) ○教員の意識徹底 (休憩時間の確保、授業終了時刻の厳守) ○振り返りの充実 (自己評価、次の授業の準備をすることの意義の確認)	児童の評価を踏まえた教師による見取り	80%以上	75%以上	70%未満	70%未満	4	中間評価87.3% ○4月当初の児童への指導により、意識が向上した。 ▲コロナウイルス感染予防の為の手洗いとの兼ね合いが難しい。	・手洗いやトイレの時間を考えて休憩時間の過ごし方を考えさせる。 ・引き続き、チャイムと同時に学習が始められるよう教師側の意識を持続させる。
健やかな体の育成	○縄跳びの自己目標達成することができた児童80%以上	○学期ごとに縄跳び強化週間を設け、大休憩に縄跳びをする環境を整える。 ○外遊びでの縄跳びの奨励(大休憩、学級タイム、ロング昼休憩等に強化週間を設ける。) ○縄跳びなどの運動の良さの紹介(体育朝会等)	縄跳び自己目標達成カードを用いた評価	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	2	○目標達成状況は、全体で75%であった。集中して縄跳びに取り組む環境を設定し、6月下旬の1週間、縄跳び週間を実施した。多くの児童が意欲的に取り組んでおり、時間と期間を設定しての取組は効果的であった。 ▲学期初めに設定した技の難易度が高い児童がいるようだった。	・2学期も、再度縄跳び週間を実施する予定である。 ・1学期の縄跳びカレンダーを振り返り、自分が出来そうな技を選んでもよいことを伝える。
	○平日5日間のメディア視聴時間15時間以内が達成できた児童の割合を80%以上にする。	○学級活動や保健の授業、生活リズムカレンダーの取組、児童朝会での保健委員会による啓発等。	生活リズムカレンダーのメディア視聴時間の項目においてA評価の児童80%以上	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	4	○5月の生活リズムカレンダーの結果、平日5日間のメディア視聴時間15時間以内が達成できた児童の割合は、96.5%であった。生活リズム週間の期間中は、児童も保護者もメディアの時間を意識して生活することができている。 ▲初めて、メディアの使用時間を目標に定めた。今年度の結果を踏まえ、目標時間の設定について、来年度以降検討する必要がある。	・児童保健委員会が啓発活動を行い、目標が継続して達成できるように呼び掛ける。 ・保健だよりを通じて、保健指導を行う。 ・メディア視聴時間が長い児童に関しては、懇談等を通じて家庭と連携を取りながら個別指導を行う。
信頼され誇れる学校	○時間外勤務45時間以内の職員割合を50%以上	○水曜日は原則定時退校。 ○分掌で出た意見を基に改善に向けて整備を進める。 ○企画委員会や部会の時間を使って並行作業を行う。 ○学期末に評価に関する事務を行う日を設定する。	入退校時刻記録を基にした時間外勤務45時間以内の職員の割合を50%以上	80%以上	50%以上	30%以上	30%未満	4	○通常通り夏休みがあったため、5ヶ月の平均時間外勤務45時間以内の職員は87%で目標を達成できている。 ▲雨漏りなど突発的な外的要因によって時間がとられることがあった。 ▲今後、行事の多い2学期となり定時退校は難しくなり、持ち帰りの仕事が増える状況がある。	・引き続き、定時退校日等の取組を続けていく。 ・職員や分掌から出た意見を大切に、必要に応じて、担当者等の設置、交代をしなが、組織としてバランスをとり、全員で学校経営を行っていく。 ・日々やりがいをもって仕事ができるよう、児童にとって必要かどうかを基準に、業務内容の精選を図っていく。